

(International Society of Physical and Rehabilitation Medicine: ISPRM)の開催が決定しております。それを記念してISPRMとの合同シンポジウムも開催いたします。

基調講演、文化講演、会長講演、26の特別講演、7の海外招待講演、80以上の教育研修講演を企画しております。学術集会への参加や教育研修講演などを受講することで単位を取得いただける予定です(表)。ランチョンセミナーをはじめとする共催セミナーは40以上準備しており、3日間を通して会場内で学んでいただけるプログラムとなっております。また第51回、52回学術集会に引き続き、リハビリテーション医療を専門とする多職種の方々からの演題を募集して、関連専門職ポスターセッションを同時開催いたします。

展示会場では、ロボット、薬物療法、生体物理刺激療法、義肢装具、摂食嚥下、介護福祉用品、未来を拓く展示などのテーマ別に充実した企業展示を企画しています。企業や研究機関に最新の情報を披露してもらい、日々の臨床や産学連携に結びつく機会を作ります。

6月の京都は若葉の美しい季節です。伝統と創意の街をご堪能いただき、心身ともにリフレッシュしていただければと願っています。特別企画として6月10日(金)には、世界遺産 清水寺の貸し切り夜間拝観も予定しています。学会ホームページから事前参加登録を受け付けます。事前登録していただくことで、参加費のディスカウントだけでなく、共催セミナー、ハンズオンセミナー、清水寺夜間拝観への参加登録も可能となります。是非、期間内に登録よろしく願います。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

事前登録期間:2016年1月15日～4月20日(予定)

URL: <http://www.congre.co.jp/jarm53>

表

第53回学術集会に参加することで単位を取得できる学会・協会

- ・日本看護協会
- ・日本緩和医療学会
- ・日本言語聴覚士協会
- ・日本作業療法士協会
- ・日本シーティングコンサルタント協会
- ・日本小児神経学会
- ・日本神経学会
- ・日本心臓リハビリテーション学会
- ・日本頭痛学会
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- ・日本体力医学会
- ・日本糖尿病学会
- ・日本認知症ケア学会
- ・日本脳卒中学会
- ・日本脈管学会
- ・日本リウマチ学会
- ・日本理学療法士協会
- ・日本臨床神経生理学学会
- ・日本老年医学会
- ・日本老年精神医学会

教育講演等を受講することで単位を取得できる学会

- ・日本医師会
- ・日本整形外科学会
- ・日本リハビリテーション医学会

(五十音順)

国際リハビリテーション医学会2019年神戸開催決定

西宮協立リハビリテーション病院 勝谷 将史
兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授 道免 和久

国際リハビリテーション医学会(International Society of Physical and Rehabilitation Medicine:ISPRM)が2019年に神戸で開催される事が決定しました。日本リハビリテーション医学会では2014年からISPRM招致委員会(才藤栄一委員長)を立ち上げ招致活動をおこないプロモーション活動やプレゼン資料の作成、ISPRM担当視察団の対応などをおこなってきました。

そして、去る2015年6月19日から23日ドイツベルリンで第9回ISPRMが開催され6月22日の代表者会議にてオーストラリアのシドニー、インドのニューデリーと競い日本の神戸で開催される事が正式に決定したのです。

道免教授を中心としたプレゼンチームは先にベルリンに入り、私は遅れてのベルリン到着となりました。すんなり入国できると思っていたのですがまさかのトラブル、手荷物で持っていた会議で配布予定のプレゼン資料が入ったダンボール箱を怪しまれ別室に連行、屈強なドイツの空港職員に色々質問を受けるという貴重な経験をする事に、何とか無事に荷物と共に開放され学会会場に到着、資料を届ける事ができたのは今になってはちょっとした笑い話です。

ベルリンでのISPRMには日本から163人の参加者がありオーストラリアからの参加者は49人と参加人数では大きく勝っていたものの、前評判ではシドニーが最有力候補地として招致活動を展開していました。実際、代表者会議における日本のプレゼンテーション直前まではシドニーではほぼ決定していたという話もありました。しかしながら共通の赤いチーフを胸に日本からの参加者は大学の枠を越え結束、各国の参加者に対するロビー活動や個々で日本人の存在感をアピールしていきました。

代表者会議における日本招致チームのプレゼンテーションは大成功、特に開催都市神戸における震災からの復興・再生をキーワードとした動画や日本の文



化と美しさを意識した配布物が多くの国の代表者の心を動かししました。代表者の中には涙する方もいらした程です。プレゼン終了後は部屋の外で待機する事になりホテルのラウンジで結果を待ちました。プレゼン終了後約1時間、その瞬間はおとずれました。開票結果の一報が道免教授に届いた瞬間の感動は今でも忘れられません。その後は各国の参加者から『Congratulations!』と声をかけられ、皆さん2019年のISPRM日本開催を楽しみにしてくれ

ているようでした。

今後ISPRMは2016年クアラルンプール、2017年ブエノスアイレス、2018年パリと続き、2019年6月9日(日)～13日(木)に神戸で開催されます。神戸での開催にあたっては近畿地方会の皆様のご支援、ご協力をお願いする事もあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



第3回近畿地区新専門医交流会の開催報告

和歌山県立医科大学 リハビリテーション医学 中村 健

平成27年10月25日(日)、大阪医科大学において第3回近畿地区新専門医交流会を日本リハビリテーション医学会専門医会と近畿地方会の共催で開催いたしました。この新専門医交流会は、2年前に近畿地区の新専門医の交流を目的として開催し、今年は3回目の開催となりました。今回も昨年と同様に、専門医取得後3年以内の先生方を対象とし演題発表と懇親会の形式で行いました。近畿地区では、平成27年度も20名の新専門医が誕生しており、平成26年度と25年度の新専門医と合わせて65名を対象に参加を呼びかけ、11名の新専門医の先生方の参加があり、4演題の発表がありました。また、近畿地方会から8名の幹事の先生方にも参加頂きました。

演題発表会では、京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院の徳永大作先生より「病院紹介:京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院」、京都大学医学部附属病院リハビリテーション科の池口良輔先生より「施設と自分の紹介」、医療法人共栄会名手病院の池田宜史先生より「地域密着型中小病院におけるリハビリの現状」、近畿大学医学部附属病院呼吸器アレルギー内科の東本有司先生より「当院における外来呼吸リハビリテーションのとりくみ」という演題名で発表が行われました。施設紹介や日頃の診療の取り組みなど新専門医の先生方のご活躍を発表頂き、和やかな雰囲気のもと質問や意見交換が行われました。本年度は、2名の先生から地域病院、2名の先生から大学病院でのリハビリテーション医療の取り組みが発表され、それぞれの立場や環境における取り組みの違いが解り私自身も参考になりました。

懇親会は、例年通り大阪医科大学の地下食堂で行われ、最初

に近畿地方会幹事ならびに日本リハビリテーション医学会理事であります道免和久先生に乾杯の挨拶を頂きました。懇親会の中では、各新専門医と近畿地方会幹事の先生方の自己紹介なども行い、参加者間の懇親を深める事ができました。最後に、恒例となりました参加者による記念撮影を行い、近畿地方会代表幹事の佐浦隆一先生より閉会の挨拶を頂き交流会を終了いたしました。

本年度の交流会も例年同様、和やかな雰囲気のもと交流が行われ有意義な会となりました。この新専門医交流会も3回目となりましたが、新専門医の参加者は、第1回が9名、第2回が16名、第3回が11名となっています。参加者が、もっと多くても良いのではないかとの意見もあり、より良い交流会とするために参加対象者や開催形式の見直しなども検討していければと考えております。最後に、新専門医交流会に参加して頂いた新専門医、近畿地方会幹事の先生方に深く感謝いたします。

